

各関係機関団体の長 殿
各病害虫防除員 殿

福岡県病害虫防除所長

平成 25 年度病害虫発生予察速報第 7 号について

このことについて、病害虫発生予察速報第 7 号（イネ縞葉枯病）を発表したので送付します。
ヒメトビウンカ越冬虫のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率は、県内平均では平年よりやや低い結果でしたが、一部で高い地点も認められています。

例年、縞葉枯病の発生が多い地域では、防除の徹底を指導願います。

速報第 7 号

- 1 対象作物：水稻
- 2 病害虫名：イネ縞葉枯病
- 3 発生地域：県下全域
- 4 発生時期：並
- 5 発生量：並
- 6 速報の根拠
平成 26 年 1～2 月に県内 16 地点の水稻刈り株から、ヒメトビウンカの越冬虫を採集し、イネ縞葉枯ウイルス保毒虫率をエライザ法で検定した。
その結果、保毒虫率は平均 4.9% で、平年 7.7% よりやや低く、前年 8.4% より低かった（表、図）。
越冬虫の保毒虫率が 5% を超える地点が 4 割程度確認され、本年急増した地点も認められた。なお、越冬虫の保毒虫率が 5% を超えると、経済的被害水準（縞葉枯病発病株率 10%）に達するとされている（岸本ら、1985 年）。
- 7 防除上注意すべき事項
保毒虫率の高い（5% 以上）地域及び、前年度本病が多発生した地域（主に早植ほ場）では、次の対策を行う。
(1) 水稻苗への本種の飛び込みを防止するため、イネ科雑草が繁茂した場所や麦類作付ほ場付近での育苗を避ける。
(2) ヒメトビウンカに効果の高い箱施薬剤を施用する。
(3) 移植時期を可能な限り遅らせる（麦収穫後の 6 月 10 日以降）。
(4) 5 月下旬～6 月上旬移植のほ場では、移植直後から成虫の発生に注意し、発生が多い場合は防除を実施する。

表 ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率

番号	地点名	平成26年		平成25年	平成24年
		検定虫数	保毒虫率 %	保毒虫率 %	保毒虫率 %
1	宗像市朝町	94	7.4	7.4	9.6
2	筑紫野市吉木/柚須原	94	1.1	11.7	3.2
3	久留米市山本町/太郎原町	94	11.7	2.1	3.2
4	うきは市浮羽町山北/高見	94	3.2	6.4	13.8
5	朝倉市菱野	94	8.5	10.6	25.5
6	嘉麻市中益	94	5.3	4.3	8.5
7	添田町中元寺/落合	94	8.5	23.4	38.3
8	筑後市馬間田	94	0.0	0.0	3.2
9	大川市北古賀	94	1.1	0.0	0.0
10	みやま市瀬高町堤	94	3.2	6.4	8.5
11	八女市黒木町木屋	94	3.2	0.0	3.2
12	岡垣町黒山	94	2.1	8.5	9.6
13	遠賀町木守	94	4.3	19.1	18.1
14	行橋市辻垣	94	6.4	8.5	12.8
15	豊前市荒堀	94	8.5	16.0	23.7
16	みやこ町勝山	94	4.3	9.6	16.0
	本所管内		6.5	9.4	14.6
	筑後支所管内		1.9	1.6	3.7
平均	行橋支所管内		5.1	12.3	16.0
	県全体	—	4.9	8.4	12.3

注) は、保毒虫率が5%以上の地点

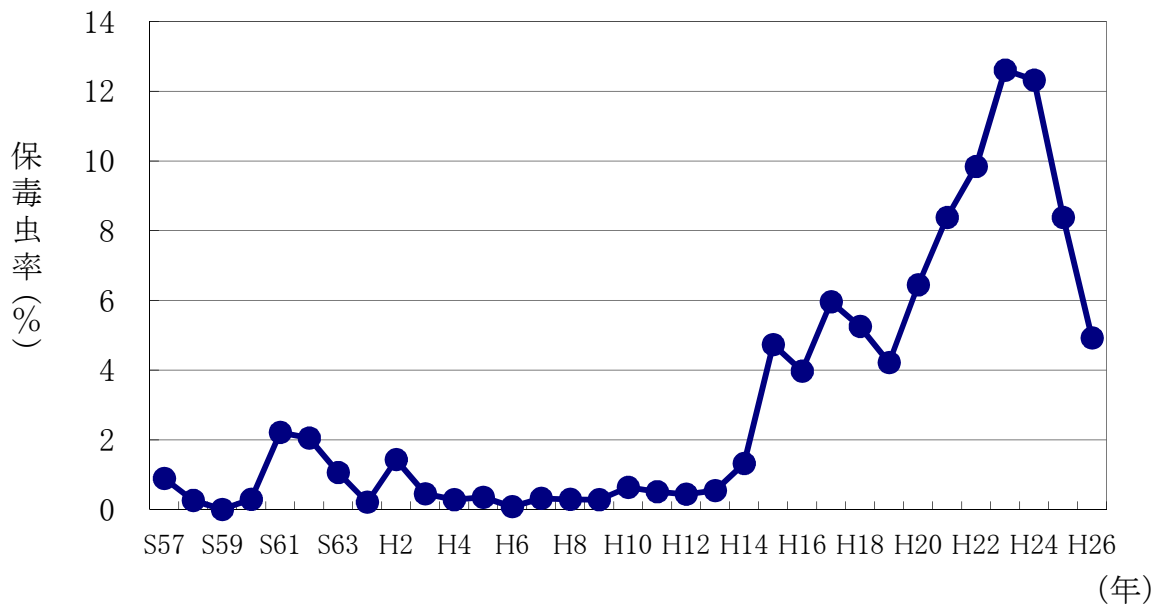


図 ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率の推移